

啐啄同時（そったくどうじ）

校長 福岡 勤

お子さんの入学・進級からほぼ一月が経ちましたが、様子はいかがでしょうか。この5月は、さわやかで何を行うにも最適な時季である反面、「5月病」と呼ばれる4月の環境の変化や緊張によるストレスにて、蓄積された疲れが出て体調を崩しやすい時季でもあります。お子さんの健康管理には、今まで以上に御留意くださいますようお願いいたします。

さて、5月は野鳥にとって新しい命が誕生し、子育てが始まる時季です。自然界の仕組みはうまくできていて、春になり、木々や若草が萌えるように生長してくると、それを食する虫たちがたくさん生まれ、さらにその虫を餌とする野鳥の雛の多くが誕生します。この野鳥の雛が、まさに卵の殻を破って孵（かえ）るとき、卵の殻を内側からコツコツ…とつつくことを「啐」といい、親鳥が殻の外からつつくことを「啄」と言うそうです。この「啐」と「啄」は、同時に行わねばなりません。早すぎても、遅すぎても雛はうまく孵らず、尊い命がこの世に誕生しないばかりか、親鳥が雛の柔らかい体をつついて殺してしまうため、好機は一瞬でしかないのです。

人の親子であっても同じようなことが言えます。子供が自分の殻を破って外に出ようとするタイミングをしっかりと親がキャッチして、この好機を見逃さずに、外から支援することが大切です。この「啐啄同時」



は、互いに意識することなく自然に行う行為であり、親子で相談しながら行うものではありません。ですから、子供の自発・自立の心と、親の指南や指導が一致したときに高い効果を生むことを表す言葉とも捉えることができます。「子供の力を大きく伸ばしたい」と、どの親御さんもお考えのことでしょう。それには、ときは少し待って子供の始動を見守ること、逆に待ち過ぎて教えなくてはならない時期を逸して手遅れにならないようにすることが大切です。このように、関町小の保護者の皆様には、子供への深い愛情と、心の奥底を見抜く日々の観察、そして間髪入れぬ指導をお願いしたいと思っております。難題ではありますが、よろしくお願いいたします。

本校の教職員も学年や個々の発達・成長段階に応じた指導を適宜、かつ適切に行うように努めております。学校・家庭の両者の力を合わせて、全てのお子さんが健やかにそして大きく成長できるよう、今後も御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。